

「学力向上ポートフォリオ(小学校版)」

学力向上目標

子ども達に対して、

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。
 - ・ドリル系アプリやスタディ・エッセンス等を活用し、基礎学力の向上を図り、「よい授業」の児童対象学校アンケートにおいて「基礎アップ」の因子について2回目の結果が1回目の結果を上回るようにする。
- 思考力・判断力・表現力を高める。
 - ・一人1台のタブレット型コンピュータを活用し、個別最適化した学習への取組を実践し、学校評価における児童アンケートで学習に関する質問への肯定的な回答率を前年度より2ポイント上昇させる。
- 主体的に学習に取り組む態度を涵養する。
 - ・学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業実践の展開を実施し、「よい授業」の児童対象学校アンケートにおいて「児童生徒の活動」の因子について2回目の結果が1回目の結果を上回るようにする。

具体的な手立て

- ①「ムーブノート」や「オクリンク」を活用して子ども同士で考えを共有したり、表現したりする授業実践を共有し、タブレット型コンピュータの活用を推進する。
- ②「ドリルパーク」の活用し、子どもが自分の学習内容への理解を把握したり、繰り返し学習をしたりして、基礎基本が定着できるようにする。
- ③タブレット型コンピュータを活用し、自分の考えを形成したり、自分の言葉で表現する力を高めたりできる授業実践を実施する。
- ④子どもが主体となる「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践に取り組む。
- ⑤1回目の「よい授業」児童対象学校アンケート結果を振り返り、教師一人ひとりが実態を把握し、授業づくりの改善を図る。

結果

今年度の振り返り・次年度に向けて

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

「ちからいっぱい」 やさしく ・ かしこく ・ たくましく
 ～知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた人間性と
 未来を切り拓く力を身につけた児童の育成～
 《学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業(学習指導)の実践》

4月

学力向上目標①

○さいたま市学習状況調査の国語の平均正答率を、令和元年度の値より2pt向上させる。

＜目標達成に向けた学力向上策＞

策1

全学年でタブレット型コンピュータを活用し、基礎学力の定着と主体的・対話的な授業を展開する。

開始期日

7月中

具体的な手立て

- ・令和元年度さいたま市学習状況調査を分析し、実態を把握する。
- ・学校研修を通して、タブレットの有効活用方法を共有する。(7月中)

8月

策2

アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を行う。

開始期日

9月

具体的な手立て

- ・タブレット型コンピュータを活用し、自分の考えを形成し、自分の言葉で表現する力を高める、主体的・対話的で深い学びを実践する。

2月

本年度の振り返り

- ・国語科を中心にタブレット型コンピュータを用いた授業を通して、主体的・対話的な学習に取り組んだ。
- ・さいたま市学習状況調査が今年度未実施のため、具体的な数値での向上は確認できなかった。

達成度

70%

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

- ・一人1台のタブレット型コンピュータを活用し、個別最適化した学習に取り組む。
- ・ドリル系アプリやスタディ・エッセンス等を活用し、児童の基礎学力の向上と主体的に学習に取り組める授業改善を図る。

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

「ちからいっぱい」 やさしく ・ かしこく ・ たくましく
 ～知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた人間性と
 未来を切り拓く力を身につけた児童の育成～
 《学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業（学習指導）の実践》

＜本年度の学力向上策＞

1 「主体的・対話的で深い学び」に結びつく授業実践

- (1) 「よい授業」づくりに係る教職員の4つの因子を意識して取り組み、因子すべてで2回目のアンケート結果が1回目の結果より上回るようにする。
- (2) 教科等充実加配やスクールアシスタントを活用したチームティーチングや少人数指導、さらには特別支援教育的対応の工夫に取り組み、わからない時には質問できる児童が概ね80%以上になるようにする。
- (3) 体験的・問題解決的な授業実践に取り組み、授業内容がよくわかる児童を概ね90%以上になるようにする。
- (4) 互いが学び合い、認め合える活動の充実を図り、進んで発表できる児童が概ね70%以上になるようにする。

2 校内研修の充実

- (1) さいたま市教育委員会指定研究「ICT教育」の基、タブレット型コンピュータを活用した校内授業研究会を年3回以上実施する。
- (2) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・さわやか相談員など子どもの指導に係る多様な人材を活用し、一人ひとりの実態に合わせた指導の工夫を図る。

3 地域・家庭との連携

- (1) チャレンジスクールや出前授業など、社会・地域の人材を活用し、異文化への理解を深める取り組みや異学年グループでの体験活動など、子どもたちが様々な関わり合いをもてる機会を各学期に2回以上設ける。
- (2) 授業参観や出前授業、体験学習など、子どもだけでなく家庭も参加できる学校行事を通して、子どもたちを取り巻く環境や子どもたちの実態、目指す姿を共有し、同じ目標に向けて協力し合える関係づくり努める。
- (3) 学校保健委員会や授業参観など、保護者が来校する機会を利用して「早寝・早起き・朝ごはん」と「桜木小みんなの約束」を合言葉に、学校・家庭が共通理解を図り、子ども達が規則正しい生活習慣を基盤とした学習習慣と学習規律を身に付けられるように努める。

＜本年度の振り返り＞

- ・「主体的・対話的で深い学び」に結びつく授業実践に向けての取組では、目標としている具体的な数値を概ね達成することができた。
- ・校内研修の充実に向けての取組では、年3回以上の校内授業研究会の他、講師の方を招聘しての講話などICTの活用を通じた授業改善を職員一人ひとりが実践を行った。また、カウンセリング研修など児童理解に向けた校内研修を行い、児童が抱える悩みについてなど一人ひとりの実態に合わせた指導の仕方についての研修を実施した。
- ・地域・家庭との連携では、校外学習のお手伝いをお願いしたり、地域の施設見学を行ったりと地域や家庭にご協力いただく機会が多くあった。また、学校保健委員会では情報モラルや食育に関する内容について講師を招いて実施するなど児童の取り巻く環境に保護者・教職員が共通理解をもてるよう工夫して実践した。

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

「ちからいっぱい」 やさしく ・ かしこく ・ たくましく

～知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた人間性と

未来を切り拓く力を身につけた児童の育成～

《学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業（学習指導）の実践》

＜本年度の学力向上策＞

1 基礎基本の定着

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果等や個々の実態に応じて、家庭と協力関係を築きながら、個別指導やグループ別指導、補充的な指導などの指導方法の工夫に取り組む。
- (2) 教科等充実加配やスクールアシスタント、アシスタントティーチャーを活用した少人数指導やチームティーチングの工夫に取り組む。

2 豊かな関わり合いの充実

- (1) 少人数での話し合い活動など学び合い、認め合える活動の充実を図る。
- (2) 体験的・問題解決的な学習に向けた指導方法の工夫に取り組む。
- (3) チャレンジスクールモデル校として地域の人材を活用し、異文化への理解を深める取り組みや異学年グループでの体験活動など、子ども達が様々な関わり合いをもてる機会を設ける。

3 校内研修の充実

- (1) さいたま市教育委員会指定研究「ICT教育」を基軸に「主体的・対話的で深い学び」に結びつく資質・能力の育成に取り組む。
- (2) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・さわやか相談員など子どもの指導に係る多様な人材の活用を通し、子どもの実態を捉え、一人ひとりに合わせた指導法の工夫を図る。

＜本年度の振り返り＞

- ・年2回実施した児童を対象とした「『よい授業』アンケート」の結果、2回目のアンケート結果で、授業づくりに係る教職員の「授業マネジメント」「基礎アップ」「授業スキル」「児童生徒の活動」すべての項目で学校平均の値が1回目よりもプラスの結果となった。
- ・学校評価では、児童・保護者を対象としたアンケートで教育相談に係る内容で共に、80%以上の肯定的な回答を得た。
- ・さいたま市教育委員会から研究指定を受けたICT教育やチャレンジスクールなどがテレビや広報誌などに掲載され、本校の取組が地域や社会へ広く紹介された。
- ・これまでの取組を丁寧に振り返り、次年度へ継続していくこと、そして学校・家庭・地域で桜木小学校に通う児童の目指す姿を共有し、協力し合える関係づくりに努める。